



Title	歓迎第九回全国保健衛生大会
Author(s)	辻野, 直三郎
Citation	makoto. 1976, 14, p. 2-3
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86204
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

歓迎第九回全国保健衛生大会

財団法人大阪防疫協会

理事長 辻野直三郎

このたび陽春五月十四日に、わが浪華の地大阪において全国の皆さまがた公衆衛生関係者によつて第九回全国保健衛生大会が開催されますことは誠に光栄でありまして深く感謝の意を表する次第であります。これを機会に将来への公衆衛生が如何にあるべきかを語りあうことは極めて意義あることと思います。と共に皆様方が今後ますますご健勝にしてこの道に一層のご精進あらんことを御礼をかねて心から祈念し、この大会の盛会をお祝い申し上げます。

公衆衛生の語原について

日本において「公衆衛生」の言葉が社会的に広く用いられるようになったのは第二次世界大戦以後のようである。特にこの文字が明記されたものには国の大本である日本国憲法をあげるべきが適当であり順序とすべきであろう。その日本国憲法第二十五条第二項に「国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及

び増進に努めなければならない。」と明記されてある。また法律としては保健所法第一条に「保健所は、地方における公衆衛生の向上及び増進を図るため、都道府県又は政令で定める市が、これを設置する。」と規定されてある。しかしながら何が「公衆衛生」であるかは人によって或いは解釈に多少のニュアンスの相違はあるであろうが私は保健所法第二条の規定する「事業」が公衆衛生のなたるかを明示したものとすることがもつとも妥当であると思う故に、これを精読されることが適当であると思惟する。

然らば公衆衛生活動の行なわれた初步的時代を簡単にふり返ってみたい。天平九年（七三七年）春初発して九州筑紫のくにを経て東進した痘瘡は大流行した。これに対して幕府は「養生法」および「治方」を撰定し「太政官符」を發布して普ねく民をして之によら

しめた。これによると疾病の原因を内因と外因とに分け飲食、喜怒、居所および外界の気象条件よりおこるものであると説き、これを調整するを法治とした。すなわち現在のうちに微生物病原体の学問的知識のなかった時代であつたため、自然環境と社会環境の重視の結果であるとなされる。なお史籍には疫病の多発を散見（日本書紀など）するがその多くは熱帯性的疾患であり、これが伝染性のもものと認められたからであろう。かくのごとき経緯から前述の「太政官符」は、後の伝染病予防法制定への最初の手掛を与えたものと言ふべきである。

明治維新前後より急性伝染病であるコレラ、ペスト、痘瘡など検疫伝染病が猛威をふるった。又赤痢は明治二十六、七年をピークに以後漸減をたどっているが、おそらくは当時の公衆衛生対策がある程度の効を奏したものと云えよう。このように急性伝染病の蔓延は国民保健の立場

から遂に当時の政府をして明治三十三年四月一日法律第三十六号をもつて伝染病予防法の制定公布を見るにいたらしめた。この観点からすればこの立法は公衆衛生法規としての近代的第一歩を確立したものと見て、公衆衛生についての功績は偉大なるものがある。しかしながらこれよりさき明治六年（一八七三年）に文部省に「医務局」が設けられて医事衛生と医学教育との事務が行なわれるようになった。当時から公衆衛生活動が行なわれたものと見るべきである。

明治八年（一八七五年）医務局は内務省に移管され後前述の伝染病予防法などが公布されて日本の公衆衛生の一つである伝染病予防時代が生まれ文化の向上に寄与貢献するにいたった。大正九年（一九二〇年）に内務省衛生局とならんで社会局が設置され、昭和十三年（一九三八年）に厚生省が開設されて公衆衛生の主管を行なうに至り、いよいよ公衆衛生の劃期的時代となった。その公衆衛生の主要な公的实施機関として都道府県、市の衛生部或いはこれに関係ある部局の業務のうち行政機関として、かつまた公衆衛生の第一線実施機関としての「保健所」

が昭和十二年（一九三七年）四月五日法律第四十二号により保健所法が公布、設置されその後数次の改正を経て現在に至っている。なお厚生省（保健衛生、社会福祉、社会保険など）の外、文部省（学生、教職員の保健問題）、労働省（工場、事業場などの労働衛生）がそれぞれ関係業務を所管している。

また厚生省には下部機関として国立予防衛生研究所、公衆衛生院、人口問題研究所等があり、都道府県、大都市には衛生研究所がその分野において活動する外、官公私立大学医学部、単科医科大学等には衛生学、公衆衛生学教室があるが特に保健所とともに、市町村における衛生課は住民生活と直結して公衆衛生の活動をし、その実績は大なるものがある。

世界的視野において

公衆衛生とは如何なるものであるかは既述したところであるが、これを世界的にみて如何に解釈されているかについては「世界保健機構（WHO）」が一九四六年六月決議した「健康」を参酌する。

「健康とは肉体的にも精神的にも社会的にも完全によい状態であつて、ただ病弱でないとい

うだけのものではない。」として
いる。このような健康はわれ
われの理想とすべき最も進歩し
た健康の定義であると思われる
が、又同決議は更に「このよう
な最高の健康の基準は社会的情
勢に關係なく世界の人々が基本
的人権の一つとしてうけるべき
ものである。」と述べている。
そして世界の人々にこのような
健康は世界の平和と国家の安全
との基礎であるからその達成に
は個人と国家との完全な協力が
必要であるとし、そのためには
全人類に対して医学や心理学や
さらにそれらに關係ある知識を
広く与えなければならぬ。」
として健康と衛生が如何に人類
に大切であるかを世界平和の基
調と共に格調高い言葉で結んで
いる。

公衆衛生と協力について

公衆衛生の何たるかについて
は既述したところではあるが、
その背景よりみて、組織化され
た社会的努力を通じて疾病を防
止し、生命を延長し、また肉体
ならびに精神の能率を高める技
術と科学である。すなわち公衆
衛生は官公庁の公衆衛生の実施
機関だけでなく、公私の公衆衛
生の研究、教育機関も含めて、
これらの機関がさらに社会の協
力をうけながらこのような目的
に向つて組織的に活動すること
を意味するものであると言ふこ
とができる。このように公衆衛
生は国、その他地方自治体は勿
論住民による地区衛生団体の協
力は不可欠の協力を必要としそ
の一体をなすことにより最大の
効果を挙げるものであつてその
ためには常に官公民一体の連絡
協議会が一層盛んであることが
極めて望ましい。

環境衛生と都市

都市には人口が集中し家屋も
密集する。これに基因して空氣
環境は悪化の一途をたどるのみ
ならず、日常生活上の廃棄物が
期せずして多量に生産され、こ
れによつて衛生上の諸問題を提
起する。この廃棄物のおもなも
のは、ふん尿と塵芥と大氣汚染
物質である。また一方水の供給
も小規模の旧態的なものでは到底
これをまかない得ない。ここに
都市の飲料水やその他の用水
の供給問題がおこり、そこに
飲料水とふん尿とは一環をなし
て都市で集団生活する人々の健
康に直接影響する。

都市の伝染病特に消化器系伝
染病の流行と飲料水あるいはふ
ん尿との密接な因果關係は既に
証明されているところである。

伝染病の予防
伝染病予防の成立については
あらためて申上げるまでもなく
三つの条件がある。a.病原体、b.伝
播形式、c.感受性のある人間、こ
れらの三条件が同時にそろつた
ときはじめて伝染病にかかるの
であるが故にここに「予防原理
を述べると、伝染病予防には前
記の三条件のうち一つだけでも
完全に防止すればよいのである
が、これは実際に社会構成上か
ら言うべくして行なわれ難い。
そこで三つの条件のうち、それ
ぞれある程度まで起り得ないよ
うな方法、環境が作られる必要
がある。すなわち病原体と伝播
形式とをあわせて考えて人間の
身体にはいらないようにとの方
策が講じられる。これが予防の
原理の第一である。これには、
伝染病患者の隔離、保菌者の発
見と治療、家屋と患者使用の衣
類、排泄物の消毒と処理、上水
道の滅菌消毒の強化、下水およ
び廃棄物の処理、ねずみ昆虫類
の駆除などがあげられる。この
うち最初の二項目は病原体を減
少させる目的で、後者は伝播形
式をどこかで破壊する目的で行
なわれる。

その子孫によつてこれが引継が
れ永遠に不滅の発展を遂げるの
である。この崇高な衛生の任務
にたづさわる人、公衆衛生の医
療関係者特に保健所職員ならび
に市町村衛生職員およびこれが
協力をおしめ各種衛生關係の
地域団体に対し最大の感謝と敬
意を表する。

擲筆するにあたり妄言を深く
謝しあわせて大方各位のご叱責
とご教示をたまわらんことを乞
う。

府政だより

大阪府衛生部では次の主なる行
事が行われる予定です。

○狂犬病予防月間
期間 四月中

○たい麻、けし不正栽培撲滅運
動
期間 五月／六月

○全国水道週間
期間 六月一日／七日

○性病予防月間
期間 六月中

○夏季における食中毒防止月間
期間 六月／七月

○齒の衛生週間
期間 六月中

○らいを正しく理解する週間
期間 六月中